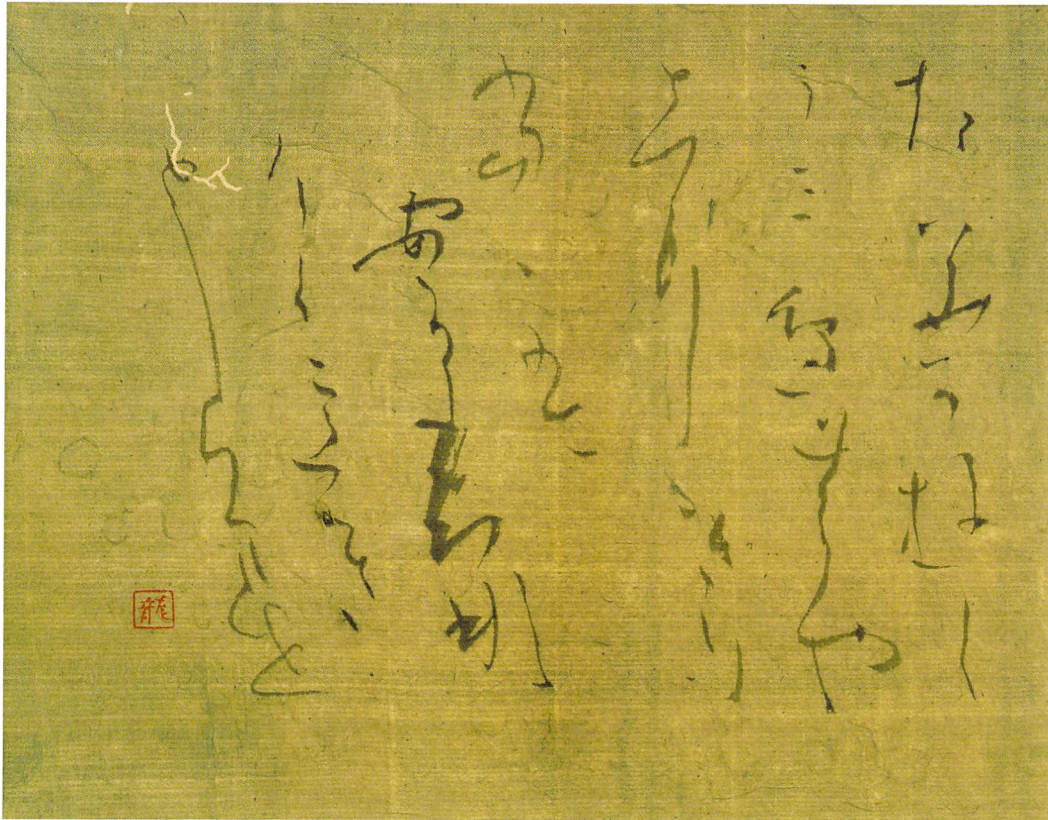


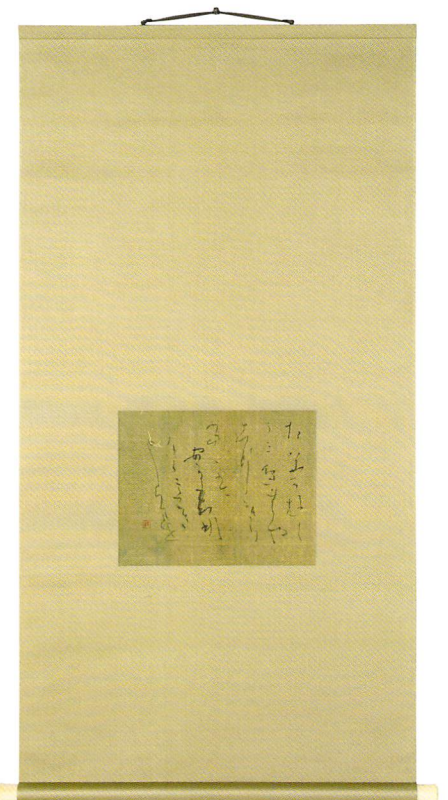
# 深山龍洞の書



20.8 × 26.6cm

君が行く海邊の宿に霧立たば吾が立ち喚く息と知りませ

(萬葉集 卷十五—三五八〇)



103 × 53cm

この掛け軸は、何時制作されたか確かな記録はありません。

毎年、県民会館で開催される表具組合の「表装美術展」に先代が制作発表した作品であることは確かです。「表装美術展」は現在も開催されています。

**表具形式** 削り抜き表具（くりぬきひょうぐ）

・本紙が濃い紙ですので、余り堅苦しい表具にしないで、緑の濃淡にてごくシンプルな表具に仕立てられています。

本紙に虫食いが有りますが、虫食いを直さずそのままの状態で見せています。

一枚の裂地（継ぎ目なし）に本紙をはめ込む（削り貫き表具）ごく簡素な仕立て方です。

・本紙周りは目立たないように白の美須紙にて覆輪（ふくりん）が取られています。

覆輪は本紙の裏側に紙を貼り表に折り返し巻き込んで貼ります。本紙の小口を保護するとともに装飾も兼ねています。（巻物の縁取りが覆輪です。）

**裂** 無地銀襦

一見無地の普通の裂のようですが、無地の銀襦です。

銀襦とは金襦と同じで金箔を使用しているか、銀箔を使用しているかの違いです。

縦糸に正絹繊維、横糸に銀箔（和紙で裏打ちしたものを細く繊維状に切った物）を編み込んでいます。

金襦と違い濃い風合いがあります。仮名書には良く似合います。

**軸先**

象牙ならでの、時代を感じさせる色に変色しています。

**紐** おそらく「上野 道明」謹製の組紐だともいいます。

**鈎（かん）** 木瓜足摺鈎（もっこ あしずりかん）：「台座及び打ち込み鈎の形の呼び名」

（原波古堂主 中島和秀）